

2011 Report from **FD** Salon of RUCED

Faculty Development

11-1

龍谷大学 FDサロンレポート

2011年度新任教員フォローアップ研修

日 時：2011年8月3日(水) 15:00～16:30(90分)

場 所：深草学舎至心館2階パドマ2階大会議室

参加対象：今年度本学着任の教育職員

大学教育開発センターでは、龍谷大学に今年度着任の教育職員の方々を対象として、今後の教育研究活動等を円滑に進めていくためのフォローアップ研修を実施しています。

今年度は、4月に実施した就任時研修のフォローアップ研修として、今後の教育研究活動等の改善に資するために、長谷川大学教員開発センター長、教学部及び教学企画部の東澤次長、河村課長、教学部の川口課長、学生部の安食課長を交えた新任教員の意見交換会を開催し、前期の教育研究活動を振り返りながら、各先生の抱える様々な課題を把握していくとともに、交流を図りました。

長谷川：センター長の長谷川岳史と申します。2011年度新任教員フォローアップ研修を開催させていただきます。4月に新任教員就任

時研修を実施させていただきましたが、前期の授業・試験も終了したこの時期に、この半期の中で感じた問題や、困難に



感じている部分を共有し、答えられる範囲でお答えしたいと思っています。初めて本学に着任された先生の意見によって見えてくる問題もあると思いますので、積極的にご意見を仰っていただければと思います。

本日は、主に三点に絞って先生方と意見交換をします。まず1点目は教育です。授業の運営方法や学生指導、教室設備等のことで困ったことや、気づかれた問題についてディスカッションをしたいと考えています。

2点目は研究面で、個人研究費や、研究の支援に関する問題等についてです。

3点目は諸会議への委員としての参加等、大学業務についてお聞きしたいと思っています。

今からお配りする用紙に、ご自身が現在感じておられる問題点を書き出していただき、グループで情報を共有し、3点くらいにまとめ、ポストイットへ書き出してください。

〈作業〉



長谷川：そろそろポストイットに書いていただければと思います。どなたか簡単な説明をする方を決めていただいて順番に発表していただきたいと思います。

それではお願いいたします。

(以下、各グループの質問に対し、長谷川センター長、事務局が回答した。)

Q1 出欠確認の方法について

他の大学ではICカードを出入り口のリーダーにかざすことで出欠の確認ができるところもあり、出席カード以外の方法もあるのではないか、という意見がありました。

A1 確かにこれまでは出席カードが主流でした。今年度から学生証がICカード化され、出席確認のシステムについて準備が進んでいます。また、名刺大のものや記述スペースが確保されているような、様々な様式のマークシートをリーダーに読ませ、出欠確認やアンケートができる用紙の検討を教学企画部で進めています。

Q2 学生との連絡方法について

新入生対象の授業を担当していますが、大学に来なくなってしまった学生がいます。教員が個人個人に連絡を取ると、外国語等、学部をまたがった授業で学生と連絡を取りたいときに各学部の教務課へ行かなければならず、手間がかかります。大学のシステムとして、欠席が多い学生を把握し、学生に連絡を取るシステムが必要であると思います。

A2 いくつかの方法があると思います。掲示板に掲示物を掲載し周知する方法が基本です。また、場合によってはポータルで知らせる方法もあります。教学部、各学部教務課に相談ください。Webシラバスのシステムを活用し、「電子会議室」という機能を授業ごとに設定する方法もあります。システムを用いて連絡する場合は、最初の授業で、連絡事項を必ず確認するように周知徹底する必要があります。

Q3 成績評価について

同じ科目において評価の基準を統一し成績をつけることが難しいという意見がありました。

A3 成績評価の基準を統一することは非常に重要な問題で、科目によってはすでに行っているところもありますが、全学的な認識として共有されているという段階まではいっていません。成績評価に関しては、教員の評価と学生の自己認識があまりにも乖離しているときに、大学を通じて学生が教員へ成績の根拠等について質問できる制度があります。

Q4 設備について

ゼミで使用する教室に視聴覚設備がなく、黒板が教室によって見えにくい席がある等、設備について要望をしたいです。

A4 視聴覚設備の充実は情報メディアセンター、教室自体の整備・管理は深草学舎では教学部、大宮

は文学部教務課、瀬田は瀬田教育学部が窓口になっています。

不便を感じておられる場合はご相談していただきたいと思います。希望通りの教室が配当されていない場合も、調整やスポットで授業を行うことにはご相談に乗れます。

黒板の位置については、設置の際配慮してきたつもりですが、お気づきになったらご連絡いただきたいと思います。



Q5 コピーについて

教材作成室が6号館にありますが、例えば2号館の講師控室にはコピー機が1つしかありません。教室のたくさんある2号館に教材作成室があったらいいのではないかという意見がありました。

A5 政策学部もでき利用率が高くなっており改善が必要と考えています。紫英館の中にある教材作成室も手狭なので、現在利用者数を調べています。教材作成室については講師控室がある場所への設置がポイントになると思います。

Q6 大人数講義について

受講者数があまりにも多く、授業を成立させるのが至難の業になってきています。私語、出席確認のコントロール、小テストの活用、質問カードでの作業等、私語を抑止する方法を用いても運営に困難を感じています。

A6 教養科目につきましては、学生は予備登録後、ある程度数を絞って受講という流れで登録しますが、学部指定の必修科目等では調整が困難な場合もあり、希望者のほぼ全員が受講する場合があります。教養教育改革の中でなるべく大人数科目を減らしていきたいと考えています。TAや、教育補助員によ

るサポートを受けられる制度もあります。

TAの制度については、教育活動への参加を通じた大学院生へのFD活動であるという側面もあります。他大学ではレポート添削等、指導の重要な部分に関与しています。本学でもプリント配布等を行う単純作業を目的とした人員とは区別する必要があります。

Q7 研究について、龍谷大学の場合、非常勤講師は科学研究費助成事業に声をかけられても参加ができないという問題があると思います。他大学では非常勤も参加されています。

A7 正しく非常勤の先生に情報が伝わっていない部分があると思います。要件を満たしていれば申請できます。詳細は研究部にご相談下さい。

Q8 私は短期大学部に在籍しています。研究面では研究部等の組織があり手厚いと思っていますが、強いて言うなら学内における諸委員会の活動について、短大の場合教員の人数が少ないので、複数の委員を兼務しないといけない状況があります。複数兼務しているから問題だという個人的な意見ではなく、大学の会議体の全体像や、連絡・調整係として参加すればいいのか、建設的な意見を言えばいいのかわかりづらいところがあり、戸惑いました。



A8 一つ方法としては各学部教務課の課長に聞いてくださった方がいいと思います。課長は各会議体の位置付けを把握しています。基本的に例規集に記載があり、課長に聞いていただければ、規程における位置づけを説明できると思います。



Q9 カルチャーショックを受けたことがありまして、着任した4月1日に研究室にパソコンが配置されていませんでした。自分のパソコンを持ち込んで結局5月の半ばまで待ちましたが、来年は新しく来られる先生が同じ思いをされないようにご配慮いただきたいなと思います。

A9 新任の先生の研究室へは4月の第2週目までには納品するという調整をしておりました。5月の納品はかなり遅いと思いますので確認させていただきます。

Q10 学生の心のケアへの対応はどのようになっているのでしょうか。

A10 学生の様子をよく見守っていただきたいと思っています。「何でも相談室」という施設もありますが、先生方からも気になる学生へ一声お掛けいただくことで、救えるかも知れない状況が多々あると感じています。学生部の相談窓口や、保健管理センターへ相談に行くように声をかけていただきますようお願い

いたします。

また、カルトに勧誘される学生が多いという問題もあります。突然大学に来なくなる場合もあります。ご相談いただければ、学生部から知っている情報をお伝えしたいと思いますので、無理のない範囲でご協力お願いいたします。

長谷川：恒常的に本学が抱えている問題の中には、なかなか解決が難しいものもありますが、先生方のお声を頂くことによって、そういった問題が一つ解決に向けて進むものと思っております。現場の先生方の意見というのが一番力になりますので、また今後とも色々な意見をお寄せいただきたく存じます。また、何か問題が起こった際に、先生方個人で抱え込まず、お気軽に各部署にご相談いただければと思います。本日はありがとうございました。



FD サロンレポートとは

大学教育開発センターでは、教職員間の交流の場として、各種の教育活動の経験や意見が話し合えるように「FD サロン」を2002年10月から開催しています。

大学教育開発センターの運営に関わる教職員が、話題提供者をコーディネートし運営されています。話題提供者のお話に耳を傾け、お茶でも飲みながら自由に意見交換等が行える機会として定着してきました。しかし、開催時間や開催場所の問題から、参加ができないとの声も聞かれます。そのようなことから、FD サロンでの話題をもっと全学に環流させ、FD の取り組みを深めていくためにFD サロンレポートを発行することといたしました。

FD サロンレポート 11-1

発行日：2012年3月

発行：龍谷大学 大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL. 075-645-2163 FAX. 075-645-2190

<http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>